



特別支援教育における「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善

北海道教育庁胆振教育局義務教育指導班作成指導資料

平成29年3月に告示された小・中学校新学習指導要領及び、4月に告示された特別支援学校小学部・中学部新学習指導要領総則編においては、単元や題材など内容や時間のまとまりを見通しながら、児童生徒の「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を行うことが求められています。

特別支援学級や特別支援学校において、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を図ることができるよう、校内研修等で活用願います。

「主体的・対話的で深い学び」とは？

**児童生徒に必要な資質・能力を育むための学びの質に着目し、
授業改善の取組を活性化していく視点**

【主体的な学び】

学ぶことに興味や関心を持ち、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、見通しをもって粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる「**主体的な学び**」が実現できているか。

【対話的な学び】

子ども同士の協働、教職員や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通じ、自己の考えを広げ深める「**対話的な学び**」が実現できているか。

【深い学び】

習得・活用・探究という学びの過程の中で、各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう「**深い学び**」が実現できているか。

特別支援教育における…

【主体的な学びの例】

- ・各単元の初めに児童生徒が自分で目標を立てたり、学習後に活動を撮影したVTRを見ながら自分の活動を客観的に振り返ったりする機会を設定する。

【対話的な学びの例】

- ・伝えたい内容を整理できるよう、自分の考えをワークシートに書き込ませてから、ペアやグループで話し合わせる。
- ・自分の考えにマーカーを引かせ、自分と他者のワークシートを見比べることで、他者との考え方の違いに気付かせる。

【深い学びの例】

- ・「調理実習の体験などから、温度による水の変化を予想させることで、水蒸気の性質についてより深く理解させる」など、既習の内容や生活経験・知識を活用して、より高次の「見方・考え方」へと発展させる。

Point 「深い学び」に向けた教科等横断的な指導と体験的な活動の関連付け

知的障がいのある児童生徒の学習上の特性と効果的な指導

知識や技能が断片的になりやすい

実際の生活場面の中で、具体的に思考や判断、表現できるようにする

「深い学び」
に向けて

各教科等の「見方・考え方」を働かせ、知識が相互に関連付いた深い理解に向けて、それぞれの学習場面の成果を他の学習場面等でも活用できるように、**教科等横断的な視点に立ち、意図的に指導内容を関連付けることが重要です。**



○ 例えば、中学校においては、数学科で学んだ長さの知識を、保健体育科の「陸上・立ち幅とび」の記録の計測の際に生かすなど、指導内容の関連付けを図り、実際の生活場面の中で、具体的に思考、判断、表現できるように取り組むことが考えられます。

【各教科等の指導内容の関連性を図る工夫の例】

月ごとに、各教科等で扱う単元や学習内容を一覧にすることで、各教科等の指導内容を意図的に関連付けて指導することができます。